

校長室だより～和光高校今昔 第41号 H27.2.13

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

写真部物語

写真部の歴史は古い。開校初年度の創立以来の11部（テニス・ラグビー・バスケット・陸上・書道・華道・英語・地学・郷土研究・写真）に名を連ねる。顧問は藤本裕之先生。初代教務主任として学校の礎固めに辣腕をふるうほか、趣味のオーディオ・映像については他の追随を許さぬスペシャリスト。おまけに人柄もすぐれ、師を慕って入部する生徒が後を絶たず部員数は1期生46名から86・57・70と増殖し、5年目に華道部に抜かれるまで部員数首位を譲らなかった（この傾向は現代に受け継がれ、平成26年も部員数ナンバー1である）。おそらく歴代の部員総数においては圧倒的な数字を示すであろう。しかし藤本先生ご栄転後は活動が縮小され、20周年記念誌では一言も触れられず、その後の記念誌でも隆盛期を語られることはなかった。途切れることなく存続していたにもかかわらずである。



1期生卒業アルバムより 後列左側が藤本先生

さて、本校応接室には沢山の賞状が飾られている。大半はラグビー部など運動部のものであり、文化部では吹奏楽部と放送部が多い。その中でひっそりと掲げられた「感謝状」、昭和63年の写真部のものである。その内容を探る中で私自身が驚くことになる。年末の大掃除ででてきた資料から15期生永嶋博文君の名前にたどり着いたのだ。彼は昭和62年の県写真展において優秀賞を受賞、翌年の熊本県で開催された全国高等学校総合文化祭



前列中央の永嶋君と受賞作品「ポートレート」

に出品したという記録である。不徳の至りであるがこの名前は見覚えがあった。私が和光で最後に担任をした生徒だったのだ。今年度将棋部門で永井さくらさんがおよそ10年ぶりに全国出場を果たしたが、埼玉県の映像部門を席卷した放送部の珠玉の作品（平成15～19年）群と吹奏楽部（昭和57年）のみと見誤っていた。不明を詫びるとともに遅ればせながらこの快挙を紹介させていただいた。